子どもと放送

No.39
2006.3

■事務局
研修保育園
〒491-0003　一宮市春明字西柳原47
TEL (0586) 77－1911

■発行者
愛知県幼児視聴覚教育研究会
会　長　福上　道則

★第４３回東海北陸地方放送教育研究大会報告
★第３７回愛知県放送教育特別研究会報告
★第３７回愛知県幼児視聴覚教育研究大会報告
★デジタル放送の現状と将来
★第３８回愛知県幼児視聴覚教育研究大会案内

国風第三幼稚園５歳児

第４３回東海北陸地方放送教育研究会報告
第３７回 愛知県放送教育特別研究会報告

平成１７年８月２４日（水）会場　愛知県中小企業センター

２１世紀に躍動する新しい放送教育のあり方を追求しよう

部会研究「感じる心を育てる」

● 提案者　豊田市立根川保育園　内藤　広子

「作りたい、遊びたい、友達と一緒に遊ぶと楽しいね」

● 助言者　名古屋市立春田幼稚園　高桑　ちづ子

「視聴をきっかけにおもちゃ作りに発展し、遊んでいく中で工夫が生まれ、遊ぶことの楽しさ充実感を味わった。」と実践報告があり、「自分ひとりでは遊べなくても、友達や先生から刺激を受けて遊んでみたくなる。また、視聴により子どもの心がどう動いたのか、その気持ちを大切にし、心の満足感を味わうことができたかどうかが大切である。」と助言されました。

● 提案者　福井市棗保育園　高間　佳子

「子どもの育ちを家庭とともに」

～視聴覚メディアを取り入れた発信方法を通して～

● 助言者　福井大学教育地域科学部　村野井　均

「視聴覚メディアを取り入れ、子どもの成長、保育内容を発信したことにより、園と保護者のつながり、家族間のコミュニケーション、食への関心、保育の見直しもできた。」と実践報告があり、「発信方法を工夫し、その日のうちに知らせることが大切であり、園生活は地域の人たちに支えられていること、保護者の方にも支えてもらうことが大切。」と助言されました。

第３７回愛知県幼児視聴覚教育研究大会報告

平成１７年１０月２６日(水) 公開保育　　社会福祉法人　明照保育園
研究報告・記念講演　豊橋市牟呂小学校体育館

心よせあって、豊かなイメージをふくらまそう

共に見て、共に感動し、共にかかわり合う放送教育

公開保育及び研究報告

０・１歳児　「いないいないばあ」

園生活に慣れるとともに、今では保育者やまわりの子どもたちと顔を見合わせ楽しんだり、画面に現れたものや思い浮かんだことを言葉に表したりしています。今後も絵本や紙芝居、手あそびを楽しむのと同じ様に、あそびのひとつとして視聴を取り入れ、安心して過ごせる環境づくりに努めたいと思います。同時に保護者にも、家庭での視聴のあり方を考える場を提供していきたいと思います。

２歳児　「おかあさんといっしょ」

子どもたちが、テレビの世界に入り込み、体を動かしたり、じっと見入ったりと場面を楽しんでいる様子を見て、保育者も子どもと一緒に映像の世界にひき込まれ、友だちやみんなで見ることの楽しさを味わうことができました。これからもテレビ視聴をすることで、映像の魅力を体験するとともに、あそびに生かしたいと思います。また、家庭でも家族でテレビを見る楽しさを経験してほしいと願い、園での視聴の様子を家庭に伝えています。

3歳児　「つくってあそぼ」

視聴の高まりからふくらんだイメージで、子どもたちと一緒に身近な素材や用具を使って、作ったり遊んだりすることの楽しさを味わうことができました。また、子ども同士で工夫して遊ぶ姿が見られ、活動への意欲が感じられます。

4歳児　「しぜんとあそぼ」

保育者自身、子どもと心を通わせ一緒に感動しながら、毎回楽しく視聴することができました。これからも自然や生き物に実際にふれ合ったり、“しぜんとあそぼ”を視聴したりして、驚きや発見・感動を子どもたちと共有していきたいと思います。

5歳児　「こどもにんぎょう劇場」

子どもたちに豊かな感性が育まれていることが、視聴後の表現活動や日々の生活からも感じられます。空想の世界を味わい、イメージが膨らんでいく「お話」は素晴らしいものだと思います。普段の生活の中でも友だち同士で同じ思いとちがう思いを大切に認め合いながら、劇あそびを楽しんだりして世界を広げています。

講　評

栴檀保育園名誉園長　　古森　柴折

「年間計画の中に視聴とのかかわりをとりあげ、研究課題をもち子どもの状況をじっくり観察し、きちんと受け止め保育士間で意見交換がされ、その積み重ねにより保育のマンネリ化を防ぎ、保育の見直しにもなった。

また、保護者をまきこむことによりテレビとのつきあい方を知らせる手助けにもなった。」との講評をいただきました。

記念講演　「子どもの成長とメディアの関係」

東横学園女子短期大学保育学科助教授　　土谷　みち子

「臨床から心配される子どもの様子」「これまでの研究と現在の研究」「保育現場での対応の仕方」の３本柱でお話されました。

まず始めに、以下の小児科学会の提言(2004)を紹介されました。

①２歳以下には長時間見せないようにしましょう
②つけっ放しにせずに、見たら消しましょう
③一人で見せないようにしましょう
④授乳中や食事中はつけないようにしましょう
⑤テレビの適切な使い方を身につけましょう
⑥子どもの部屋には、テレビやビデオを置かないようにしましょう

といった内容でした。
そして、子どもの生活調査や集団行動の行動観察等の研究結果から、心配な視聴スタイルとして

①乳児早期からの視聴開始
②１回における長時間視聴
③巻き戻し(反復)視聴の日常化
④子どもの単独視聴(大人が声をかけない)
⑤視覚体験より五感体験が少ない(外遊び、手足の触覚・操作体験の不足)

を指摘されました。こういった視聴スタイルの背景として、「もう一人の子育ての担い手としての子守り機能」や「子どもを家族の期待の対象化とし、期待に応えるための教育機能」をテレビに求めている現在の子育て家庭があると分析されました。さらに、気になる集団場面での子どもの行動特徴として

①まねることをしない
②他児の歓声や遊びに振り向いたり接近したりしない
③積み木などを何かに見立てて、想像して遊ぶことができない
④ごっこ遊びをしない、できない
⑤表情が乏しく、声を出すことが少ない

等をあげられました。
こういった調査結果を踏まえ、これからの子育て支援・保育内容として

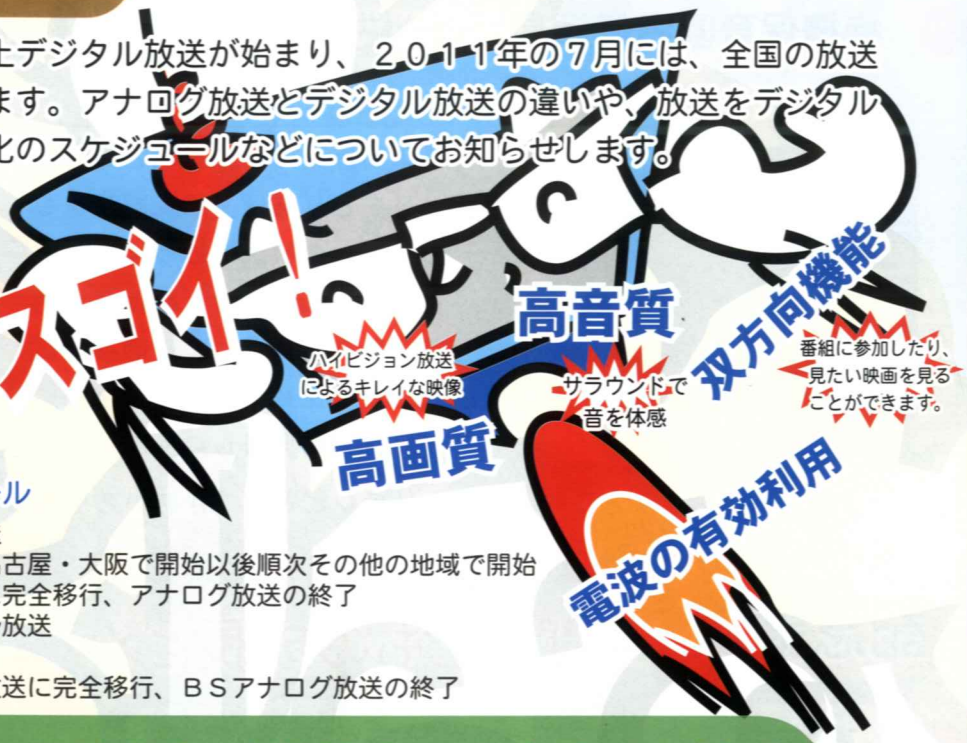
①五感を駆使した直接体験(自己認識)
②親と子どもの関係をはぐくむ保育(愛着行動)
③子ども同士の接触を促す(共感性)
④親と子どもとの「生の息吹」(育ちの主体性)

が大切であると結ばれました。

デジタル放送の現状と将来

ＮＨＫ名古屋放送局視聴者技術主任　　中村　邦夫

東海圏内でも一昨年１２月に地上デジタル放送が始まり、２０１１年の７月には、全国の放送がすべてデジタル化に切り換わります。アナログ放送とデジタル放送の違いや、放送をデジタル化するメリット、今後のデジタル化のスケジュールなどについてお知らせします。

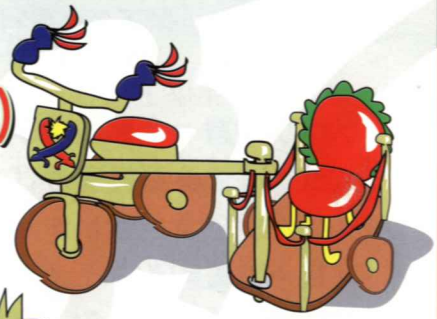


デジタル化のスケジュール

【地上放送】デジタル放送
２００３年１２月東京・名古屋・大阪で開始以後順次その他の地域で開始
２０１１年デジタル放送に完全移行、アナログ放送の終了
【衛星放送】ＢＳデジタル放送
２０００年１２月開始
２０１１年ＢＳデジタル放送に完全移行、ＢＳアナログ放送の終了

平成18年度

第３８回愛知県幼児視聴覚教育研究大会のご案内



期　日　平成１８年１０月２５日(水)

会　場　ウィルあいち（予定）

〒461-0016
名古屋市東区上竪杉町１番地　TEL 052-962-2511

※　内容につきましては、検討中です。

参加者が参加しやすく魅力的な大会、保育者の学びが子どもたちの育ちにつながる大会になるようにと考えています。

詳細につきましては、決まり次第ご案内を差し上げます。

編集後記

「保育に放送教育は必要なのか」を考えると必ずしもみんな「ＹＥＳ」とはなりません。しかし子どもたちは生まれながらに多くのメディアに接触しています。子どもたちをメディアから遠ざけるのではなく、どのようにうまくつき合っていくかを考えることだと思いました。

連絡先
ＮＨＫ　名古屋放送局事業部内
愛知県幼児視聴覚教育研究会　事務局
〒461-8725　名古屋市東区東桜1－13－3
TEL. 052-952-7070　　FAX. 052-952-7036